

講義名	対1)教養特講Ⅱ（表計算の活用）				授業形態	
担当教員	木村 敬夫／木村 敬夫	開講期・曜日・時間		前期 水曜 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング
主題と概要						
「教養特講Ⅱ（表計算の活用）」は所与の「課題解決」に必要なデータを取得し、情報処理技術のひとつ「表計算」（MS-Excel）を利用して、データを整理・分類・集計、グラフ化・図表化等することで可視化・視覚化し、データに説明力を与えて有意な情報に転換させ、これを第三者に「説明」する方法を学修する。 「教養特講Ⅱ（表計算の活用）」は主に開示・公開されている（オープンソース）「デジタルデータ」（デジタルデータベース）を前提として、Networkを通して、「データベース」から、与えられた課題に解答（回答）を示すために必要と考えるデータを収集し、選別し、データを加工、再構築し、有意なる表現に転換、情報化する方法を修得することを目標とする。						
到達目標						
「教養特講Ⅱ（表計算の活用）」は、主に、企業・会社に求められる「事業課題」に関連する知見を得るために、企業経営・事業に関連する「データ・資料」から数的処理・統計的処理を行い、課題解決を提案する。データは事業であって、企業にとって意味になるためには、分析・解析が必要である。 教養特講Ⅱ（表計算の活用）は、統計学、データベース、データサイエンス、データ分析、ビジネスシミュレーション、経済・経営データ分析など現代社会経済に必須とされる“データ処理”技術を学修する科目の前提知識を修得・学修にすむ前段階、入門科目である。データ処理の第一歩ができる。						
提出課題						
Portalに講義時間内に行う練習・提出課題が公開される。履修者は毎回課題処理、その提出が課せられる。講義時間内に処理し、提出（プリントアウト）する。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
Portalに講義時間内に行う練習・提出課題が公開される。履修者は毎回課題処理、その提出が課せられる。講義時間内に処理し、提出（プリントアウト）する。						
評価の基準						
課題提出（100％）で評価する。但し、出席と課題提出回数の双方の2/3を超えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、決められた期日、講義中以外は認めない。						
履修にあたっての注意・助言他						
単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。同様な科目から、毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自己学修、やらなければ結果はでないと考えてもらいたい。 また、取得するデータがオープンソースであっても、パーソナルデータの保護、取り扱い、倫理・規則遵守が前提にある。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						
.なし。						

その他		
第1　イントロダクションで紹介する。		
授業計画		
講義・演習予定 第1　イントロダクション 第2　Excelの可能性と限界、公開情報 第3　Excel：データベース、クロス集計・ピボット・「図表化」 第4　Excel：基本統計量、関数と「データ分析」 第5　Excel　データと関数① 第6　Excel　データと関数② 第7　Excel　データと関数③ 第8　Excel　データと関数④ 第9　Excel　データと関数⑤ 第10　「データ分析」分析ツール　① 第11　「データ分析」分析ツール　② 第12　「データ分析」分析ツール　③ 第13　ソルバー　① 第14　ソルバー　② 第15　ソルバー　③		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
学修には、Portalに講義時間内に行う練習・提出課題が公開されることから事前に予習と講義内の課題提出後のそれぞれに2時間、計4時間を必要とする。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
データ処理は現在社会経済、企業の必須要因である。当然、情報処理の方法の知識、知見を保有することが企業人・組織人が備えなければならない技術である。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
備考		
単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。同様な科目から、毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自己学修、やらなければ結果はでないと考えてもらいたい。 また、取得するデータがオープンソースであっても、パーソナルデータの保護、取り扱い、倫理・規則遵守が前提にある。		